

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



里親さんへのクリスマスカードを書く子(ルワンダ・ピース国際学校)

全力をもって他者に仕えなさい

日本国際飢餓対策機構 啓発総主事 田村治郎

「下手だから、恥ずかしいからと躊躇したり、断ったりするのは謙遜ではありません。何事でも最善を尽くせばいいのです。断ることが楽かもしれないけれど、失敗して人に笑われたくないと思う心は傲慢です。」(集英社「終戦のエンペラー」P.29)

書物を通して、恵泉女学園創立者河井道先生の教育者としての生涯のひとこまを知ることができました。師の教育姿勢と学生たちに分かち合われた数々の言葉に訓戒を得ます。冒頭の言葉も、結果を問うことだけでなく物事に向き合う姿勢、その過程に目を向け、最善を尽くすところにおのずと結果は表されてくる。日本国際飢餓対策機構に委ねられた、世界にある飢餓と貧困と闘う人々の隣人として生きるために最善を尽くすことの意義深さを学びます。

『「神様はね、それぞれ別の目的を持って、あなたがたをつくられたんですよ。」

「人間はそれぞれの目的を持ってつくられている。この河井の言葉は生徒を一つの型にはめないという教育方針と同時に、生徒の持つ可能性に目を向けることを意味していた。」(前野書P.24,27)

今もなお世界の飢餓人口は約9億人。世界人口の7人に1人、8人に1人が人が生きる最低限の食を得ることがで

きずに苦しみに喘いでおられる。世界の子もたちの7人に1人が学校に通えずに、危険な労働を強要されている現実があります。貧困や災害・紛争で、生まれた国や地域の違いによって虐げられる人々が今もなお声にならぬ呻きの中におられます。誰もが目的を持ってこの世に生を受けていながら、それぞれに与えられている可能性が否定され失われてゆく。不条理と理不尽の中で翻弄される人々が、生を謳歌し、誰に代わることもないそれぞれの人生の目的に生きることへの回復がなされなければなりません。そのために私たちはさらに知恵と情熱を注いで、様々な能力や経験をもつ多くの人々との協力の広がりや繋がりを築いて取り組んでゆこうではありませんか。

『「七の力を与えられている人が精一杯励んで八点をとった。十の力を与えられている人が怠けて九点を取った。人間の目には九点の方が上でも、神様の目には八点の方がずっと上です。」(前野書P.28)

「善隣共生」…「善き隣り人となって人々と共に生きる」この言葉は日本国際飢餓対策機構が目指す地球家族の姿です。それは怠けていて実現することなく、全力を注いで他者に仕える生き方なくしてありえない。襟を正される思いです。

世界里親会 里子訪問ツアーのご案内

訪問地: カンボジア アンロンベン地区
日程: 2014年5月12日(月)~17日(土)
参加費: 13万円の予定

本年7月に自立支援の完了を迎える3つの村を訪問し、クロージング・セレモニーに参加、子どもたちや地区の皆さんと交流いたします。

資料のご請求・お問い合わせは大阪事務所
☎ 072(920) 2225 世界里親会まで。



スプリング・プレゼントセット バレンタインの贈り物などにどうぞ

フェアトレード・チョコレート4枚(計1,260円)、ポーロスブランドのアクセサリー2点(計1,000円)、合計2,260円相当の商品を2,000円(送料無料で)お届けします。

バレンタイン・デーや親しい方へのプレゼントにいかがですか?チョコレートとアクセサリーの内容はおまかせください。収益の内100円は、日本国際飢餓対策機構を通してハンガーゼロ、フィリピン台風被災地支援、東北支援のために用いられます。



詳しくは、㈱キングダムビジネスまで。
大阪市中央区内本町1-4-12 NPOビル6階
TEL: 06 (6755) 4877
FAX: 06 (6755) 4888
ウェブサイトからも申し込みできます。
<https://www.kbwin-win.org>

3月 ハンガーゼロ・ファシリテーター・トレーニング

海外で活動をめざす方の特別な学習の機会です。ぜひご参加ください!

期 間: 2014年3月17日(月)~21日(金)
会 場: 東京基督教大学(TCU) 千葉県印西市内野3-301-5-1
費 用: 30,000円(滞在費とテキスト代5,000円を含む)
定 員: 12名 ※申し込み・お問い合わせ: 大阪事務所(吉本)

★書き損じのはがき、未使用切手をお送りください。支援になります

年賀状(私製は除く)などで「書き損じ、印刷ミス」のものをお送りください。それを郵便局で切手と交換して、海外スタッフや支援者への郵送物発送に用いさせていただきます。また、記念切手などの未使用切手も大歓迎です。送付は大阪事務所まで、封書の表面又裏面に「はがき、切手在中」とお書きください。



ハンガーゼロ
サポーターを
大募集中!!
現在...
3304口

今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ☐ フィリピン台風支援に協力します。
緊急募金として _____ 円協力します。
- ☐ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口1,000円)
- ☐ チャイルド・サポーター(世界里親会)になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- ☐ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口1,000円)
- ☐ JIFHサポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口500円)
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: _____ 男・女

〒 _____
フリガナ 住所: _____

.....
(電話)

▼申込日: _____ 年 月 日▼NL 号

FAX・072-920-2155

■発行者 岩橋竜介

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

いいね
大募集

Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで
●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
●他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ

今すぐ
募金が
できます!



大 阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東 京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
東 北 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ2階E
TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651
愛 知 〒466-0064 名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター2F
TEL (052)731-8111 FAX (052)731-8114
広 島 〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLC ブックス2F
TEL (082)546-9036 FAX (082)546-9037
沖 縄 〒901-0156 那覇市田原3-8-1 コリ香ハウス201号
TEL (098)859-4585 FAX (098)859-4540

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が、送付作業のご協力をして下さっています。

食べ物が十分にない子どもたちにとってどここの国でも学校給食は、なくてはならない栄養源であり、エネルギー源でありまた、将来への希望の源にもなっています。レストラン「永田町黒澤」が、お客様から頂いた食事代の一部を学校給食のために寄付してくださり、2010年から南スーダンのマブイ小学校に、地元のパートナー団体、ライフ・イン・アバンドランス（Life In Abundance）を通して給食支援が行われています。当機構の東アフリカ担当スタッフ、河合朝子が2013年12月にそのマブイ小学校を訪問してきました。



レストラン「永田町黒澤」

南スーダン マブイ小学校／給食支援



青空教室の生徒たちは長椅子に詰めて座り、膝を机代わりにノートを取っています。

食べられる、だから勉強に励むことができる

南スーダンのほぼ中央部、レークス州の州都、ルンベックから車で20分ほどの距離にマブイ村があります。ここにはもともと小学校がありませんでした。2008年にガブリエル牧師がマブイ村の子どもたちのために幼稚園を始められ、同じ時期に当機構の現地パートナー団体ライフ・イン・アバンドランスがこの地域での自立開発支援を始めました。そのことがきっかけで、ガブリエルさんの幼稚園は2009年にマブイ小学校となりました。

大人の非識字率が7割以上

長い内戦後、2011年に独立を果たした南スーダンですが、今も地域の人たちの暮らしは楽ではありません。就学年齢の子どもたちも家族を支えるために働かなくてはならないこともあり、小学校を卒業できる人は少なく、大人の非識字率は76%とされています。さらに、女性は家事や畑仕事、子どもの世話などをすることを求められる社会で、女子教育への理

解は低く、6-13歳までの女子生徒の就学率は37%です。（ユニセフ、2011）

そんな中、マブイ小学校は生徒の数が年々増加しています。7年前に30人で始まった小学校は今1年生から5年生の441人が勉強するまでに大きくなりました。生徒がこのように増えている理由として、学費が無料であることと給食があることが挙げられます。十分に食べることができない生活を送っている子どもたちにとって、学校給食は毎日の楽しみであり、勉強を続ける励みとなっています。子どもたちに給食の感想を尋ねたところ、どのクラスでも「とても楽しみで、おいしい」という声が返ってきました。

足りなくても、喜び合える

実際は生徒が増えるに伴い、教室も、椅子も、先生も足りなくなっています。さらに給食の量も、お皿やスプーンの数も足りないのが現状です。それでも一つのお皿を友だちと分け合っている様子や、

学年の割に体のかなり大きい5年生の生徒が小さな5年生と同じ量を嬉しそうに食べている様子を見ることができました（写真上右）。

子どもたちにとっては、足りない状況を悲観するよりも、むしろ



この日の給食は、アシタと呼ばれるソルガムの粉を水で煮て固めたものと豆の煮もの

与えられている状況が有難く、嬉しいことなのだろうと思わされました。

マブイ小学校が提供する給食つきの教育は、地域の人たちの必要に応え、またこれからの南スーダンの未来を担う子どもたちへの希望となっています。（ルワンダ駐在東アフリカ担当・河合朝子）

●アフリカの飢餓問題を解決するための「ハンガーゼロ・サポーター」を募集しています。毎月1,000円（1口）



水の浄化フィルターを喜ぶ女性（サマル島マラブット）

フィリピン台風緊急支援

私たちは日本から送られたパンの缶詰や水の浄化フィルターを、レイテ島やサマル島の被災地で配布しましたが、行く先々でも喜ばれました。

今回の支援活動で特に印象的だったのは12月20日にマラブット、ビノキヤハンで行われた特別プロジェクトです。当機構のパートナーであるF Hフィリピンはこの地域に事務所を構え、長期的な支援を見据えて活動を展開しています。その日はF Hフィリピンやロータリークラブ、マニラから派遣された医療チームとの協力、ビノキヤハンに住む300家族を対象に医者による診察、薬や眼鏡の提供、パンの缶詰の配布などが行なわれました。

診察を受ける前はとても不安そうにしていた住民の皆さんは、診察を終えて薬や眼鏡を受け取り、私が最後にパンの缶詰をお渡しすると、明るい笑顔で「ありがとう」と感謝の言葉と共に帰って行かれました。被災後、病院にも行けず不安な日々を過ごされていた人々にとって、物心両面の大き

物心両面の必要に応える

な助けになったことと思います。

また、その地域にある小学校を訪問させていただきましたが、子どもたちはとにかく元気で、崩れ

た校舎の中でも無邪気に遊んでいました。しかし、その学校の先生に被災当時の様子を伺うと、激しい突風で教室の屋根が吹っ飛び、壁を破壊、また大きなココナツの木が倒れて家々を押しつぶしていったということです。その光景を見ていた子どもたちは恐怖のあまり、泣き叫んでいたそうです。

目に見えない心の傷

F Hフィリピンはこの学校での支援も始めています。先生たちに休んでいただくために授業をいくつか担当し、子どもたちのケアを目的とした授業を始めています。その授業の中で子どもたちが描いた絵には、木が倒れている様子や壊れた家や建物の他に首が切れた人の様子も描かれていました。元気にみえる子どもたちの心の

中には目に見えない傷が深く深く刻まれていることを感じました。

私は1月17日から再びフィリピン※へ向かいます。日本からボランティアとして協力してくださる方々を募り、共に現地で行われている支援活動に加わります。今回は給食支援をしながら、多くの子どもたちと関わり、心に傷を負った被災地の子どもたちのためにできることをしていきたいと思います。続けてご支援をよろしくお願いいたします。（吉田知基）

※当機構は、1月中旬から2月上旬にかけてタクロバン市にボランティアチームを2回派遣します。



パンの缶詰や薬などが配られました（サマル島ビノキヤハン）

仮設のテント校舎に通う子どもたちには心のケアも必要になっていきます



共に希望をもって一歩前へ

支援を受けた者として東北からも愛を届けたい

2011.3.11 東日本大震災から1097日…

3月11日で東日本大震災から丸3年になります。長くもあり、また短い3年間であった気がします。東北以外の地域では、震災関連の報道も少なくなり、「東北の復興は完了した」ように感じられている方もいることでしょう。

震災発生1年目は、誰もが訳も分からず目の前の現実を黙って受け入れるしかありませんでした。2年目は少しだけ前に進む気持ちを持てるようになり、3年目の今年は、自分たちで立ち上がり始めている方々にお会いするようになりました。

時間の流れと共に、支援される立場から自立への歩みに変わり、被災者同士が互いに励ましあう姿、助け合う姿を目にします。東北地方の主要産業である漁業や農業の再興が始まりました。また、主に女性たちの手で復興支援商品も作り出されています。これは、販売する目的だけではなく、

『こうやってみんなで集まって話をしながら作業をすることで、寂しさや悲しみが少しずつ薄らいで頑張ろうという気持ち生まれてくるのです』という声も聞かれます。反面、将来の不安を抱えながら声に出すこともできない方々もおられます。前に進み始めた方、現状に留まらざるをえない方双方に私たちがどのようにして関係を持ち続けていくのかが課題です。

九州からサンタさん来訪

復興と停滞の両方を抱える被災地ですが、震災後に何度もこの地に足を運んでくださった方々が、「東北のためにできることがまだ何かあるはず」とクリスマスにやってきてくださいました。九州からは昨年に引き続き、「サンタプロジェクト九州」のメンバーが、福島県三春町、宮城県若林区、南三陸町にプレゼントと楽しいクリスマス会を届けにきてくれました。

このサンタプロジェクト九州代表の、日本イエス・キリスト教団福岡油山シャロームチャペルの横田法路牧師が英国留学中に、クリスマスに靴箱にプレゼントを詰めてロシア・ベラルーシの子どもたちに送っていたことを思い出し、東北の子どもたちにもプレゼントを贈ろうと教会内や近隣の方々へ呼び



「同じ経験をしたからフィリピンの方々に助けたい」宮城県亶理町のお母さんらが支援募金を集めてくださいました



かけて始まりました。その他にも聖協団西仙台教会の中澤竜生牧師が震災後訪問を続けておられる、南三陸町戸倉の仮設住宅の敷地内の樹木に、クリスマスイルミネーションを飾ってくださいました。設置当日はろうそくの光のもと、一足早いクリスマスのお祝い会となりました。このイルミネーションの先端の青い大きな星は海上からも見え、南三陸町に希望の光を届けています。

同じように、東海地区の海外帰国者グループ（インスパ）からは、東松島市東名・野蒜地区の子どもたちにクリスマスプレゼントが、また福島の子もたちを対象にした短期保養キャンプ（ふくしま

HOPEプロジェクト）に合わせて、日本イエス・キリスト教団明野キリスト教会の皆さんからは、パウンドケーキ（写真中央）が送られました。

フィリピンの方々のために

震災被害で多くの支援を受けた東北の方々が、受けるばかりではなく今度は自分たちが恩返ししたいと、11月の台風30号で甚大な被害を受けているフィリピンの方々に助けてあげてくださいと募金運動をしてくださいました。

「同じ経験をしたからこそ、フィリピンの方々の気持ちや大変さが分かります。私たちも大変な中にありますが、少しでも何かできれば良いと思ってね」と集まった募金を託してくださいました。

「東北から世界を変える」一人一人の愛の行動がこのことを実現させていきます。

今年は、もっともっと復興への歩みが前に進んでいくことでしょう。皆さまの応援とご支援を感謝致します。

（東北事務所・伊東 綾）

神戸と東北をつなぐ歌声／森 祐理さん



2013年6月に同校を訪問した際、森親善大使がこの曲を歌い始めると、子ども達も一緒に口ずさみ始めたことから、東北の被災地の子どもたちが前向きに頑張っていることを神戸の人たちに知ってもらいたいと、バックコーラス（録音）として一緒に歌



うことになったのです。子どもたちには、大切な人や物を奪った震災から、たくさんの優しさや愛に励まされて立ち上がっていったことをいつまでも覚えていて欲しいと願います。（伊東）

1月17日朝5時46分、神戸三宮の東遊園地公園で行われた『阪神淡路大震災1.17のつどい』において、この大震災から生まれた「幸せ運べるように」（臼井 真作詞・作曲）が、当機構の森祐理親善大使と宮城県南三陸町立伊里前小学校の子どもたちの合唱で、早朝の神戸に響きました。



福島県三春町の幼稚園児は訪れた福岡油山シャロームチャペルのサンタさん（ボランティア）に大喜びでした



宮城県南三陸町では、西仙台教会の皆さんが被災者の心のケアとして訪問活動を続けています

親愛なる里親様へ

世界里親会

10年後のめぐみ

アフリカ・モザンビーク
元里子から

1991年から10年間にわたって行われたモザンビークでの世界里親会の活動は、今たくさんの実をみらせています。その当時は、この活動が子どもたちにどれほどの結果をもたらすのか私には想像できませんでした。しかし今、子

もたちのためにしてきたことは決して無駄ではなかったことが分かります。ムササの子どもたちを支援して下さった方々に改めて感謝致します。

元FHモザンビークスタッフ
エルネスト・カラベティ

勉強を続けながら子ども3人の父親に

ルイ・セルソ

私は、ファンビッシ区域ドンド地区ムササ小学校で里親のミッル・ナラサキ様から支援を受けて勉強したルイ・セルソです。長い間連絡をしていませんでしたが、あなたの支援を受けてから神様がどんなに素晴らしいことを私の人生にしてくださったかをお話ししたいと思います。

2002年にマファンビッシ中学校10年生を修了し、2004年にイニャミズワの専門学校で教える資格を取得しました。次にイニャミ



ングの教師養成学校でポルトガル語文学を教える資格を取得して、そこで2011年まで教えた後、私の教師としての働きが評価され、ベイラの教育大学で奨学金を得て勉強することが可能になりました。

大学で物理を学びながら母校では先生

アルトゥール・アゴスティニョ

私は今自分が通ったムササ小学校の先生をしています。この小学校の横に、様々な商品が揃った、私の文具店があります。私はドンド地区の学校で高等教育を終了し、現在ベイラ教育大の3年生です。物理学を勉強していて、もう少しで修了します。母校の教師と文具店の運営もしている私は、里親の方（ミサヲ・フクナカ様）の助けが何年もあったからこそ、十

分な教育を受けることができ、勉強を続けるための商売をするというビジョンも与えられました。私が生まれたこのコミュニティーが発展していくのを見るのが私の目標です。

教師であり生徒であり、商売もしている私には、現在妻と3人の子どもがいます。職場や大学の教室で、そして授業が終わってから働くお店で、日々さまざまな経験をしています。ムササは今電気が通るようになり、発展の一途をた

た。今この大学の3年生です。大学では初等教育と教育機関の経営について学んでいます。

今はこの写真のように大人になってひげも生え、声も太くなりました。私は感謝の気持ちを表しきれない言葉がないくらい里親の方に感謝しています。あなたの助けがあったからこそ、今の私になりました。私の親は、ここまで勉強できて今の状況まで来ることができたほど経済面で私を支えることはとうてい無理でした。私は今、3人の子どもの父親です。2人が娘で1人が息子です。あなたに神様の祝福がありますようにお祈りします。



どっています。里親の方に感謝します。私のような喜びを経験することができるよう、どうかこれからも他の人々への支援を続けてください。

●世界里親会では、子どもたちの成長を助けるチャイルドサポーターを募集しています。お申し込みは大阪事務所まで

☎082(546)9036

広島

事務所では、今年の3月より、新しいプロジェクトが始まりました。それは、広島県の都心部にある事務所の一部を、地域に仕え世界を支える「コミュニティースペース」として開放し、そこでフェアトレードのコーヒーやココアを提供、またJIFHの活動紹介をすることによって、飢餓・貧困問

題の現状を多くの方に知ってもらい、応答するきっかけにして頂くというプロジェクトです。

一年前の広島事務所は、いつかカフェ空間のコミュニティースペースになるとは信じがたい状態でしたが、CLC書店・職員や多くのボ

cocusaiでお茶しましょ！

ランティアの皆さんの犠牲的な協力や周りの方々の暖かい支援と励ましによって、「cocusai コミュニティースペース」が昨年10月に誕生しました。そして初めてのイベントとして金曜日の夜に小さなチャリティーコンサートを開催することができたのです。

広島事務所のミニコンサートの様子



cocusaiは、まだまだ未完成のプロジェクトで、引き続き皆さまのご支援とご協力が必要です。しかし、今年の3月にここで始まった小さな動きが

少しずつですが大きくなり、地域の方々に届いていること、そして私たちをも変えられ成長させて頂いているのは感謝なことです。今年は2月より定期的にイベントを行っていきたく願っています。広島にいらっしゃったときにはぜひお立ち寄りください。



おうちサロンでも・もてなす

JIFH事務所に来てみて!!

東北 東京 愛知 大阪 広島 沖縄

勉強会やミニイベントに参加して世界を知ろう

☎03(3518)0781

東京

事務所では、昨年4月より毎月「ファシリテーター・トレーニングセミナー」を行っています。このセミナーは、将来途上国の人々と共に生き、働きたいと願っている人たちに、「飢餓とは何か」「その原因は?」「わたしたちに

何ができるのか」を考える時間を持っていただくことを目的としています。

昨年4月からの月平均参加者は15名。初参加の方も多く、ご

「ファシトレ」で楽しく学ぼう

家族で参加して下さった方もいらっしゃいました。田村啓発主事や東京事務所スタッフが講師となり、アイスブレイカー、講演、グループディスカッションなどを通して、飢餓の根本的な原因を学び、私たちに何ができるかを話し合いました。

参加者からは、「飢餓の状況をあまり知らないけど、何かをしたいという思いで参加しました。セミナーで飢餓の現状を知ることができ、何ができるかを知るきっかけを与えられました。もっと学びたいです。」という声が聞かれました。

今年も、引き続きセミナーを行います。また、イベントを開催する月もありますので、関東にお住まいの方は、ぜひお越しください。

2月は22日(土)にフィリピン台風被災者支援ボランティアに参加者して下さった方による報告会を行う予定です。



参加者が増えてきました(東京事務所)

●JIFH 各事務所とコラボで勉強会やイベント、ボランティアをしたいなどのお問い合わせ大歓迎。各事務所までどうぞ

わたしから
始める、
世界が変わる